

「生活日本語」と日本語教育基盤情報

著者	柳澤 好昭
雑誌名	「生活日本語」の学習をめぐって：文化・言語の違いを超えるために
ページ	2-3
発行年	2008-01-26
シリーズ	国立国語研究所研究発表会；平成19年度
URL	http://doi.org/10.15084/00002970

「生活日本語」と日本語教育基盤情報

柳澤 好昭 (国立国語研究所)

yoshi3@kokken.go.jp

国立国語研究所は、第二期中期計画の始まった平成 18 年度から、それまでの日本語教育部門を日本語教育基盤情報センターと改称しました。そして、大学における日本語教育研究はもとより、各日本語教育関係機関と連携・協力しつつ、日本語教育の基盤情報の作成・提供、並びに基盤の整備を行い、日本語教育機関・団体等における教育実践の充実を支えることを目標に掲げました。センターとして第二期中期計画で掲げた事業は、

- ・日本語教育情報資料の作成・提供
- ・日本語教育情報の作成基盤の整備及び成果の普及

の二つです。これらに共通するキーワードは、「言語生活」「コミュニケーション (意思疎通)」「人間関係」「獲得目標言語」です。

人は、所属する社会の物理的環境、社会的環境、文化的環境と相互交流を図り、均衡の取れた生活上の世界を構造化 (集団形成、規範化) していきます。昨今、日本は 100 人に 1 人以上が外国人 (日本語非母語話者) という社会状況となり、日本人 (母語話者) 同士、日本人と外国人、外国人同士が日本語もしくは他の言語で生活を営んでいます。日本人と外国人双方が、これまでとは異なる環境の変化に直面し、自分と環境との関係 (態度変容、人間関係構築、言語獲得、慣習対応など) を作りかえている状況です。

日本社会の人々が円滑なコミュニケーションを図り、人間関係を築き、心豊かに暮らすために、言葉の面でどのような課題があり、どのような対応が必要でしょうか。これを考えるとき、これまでの日本語の知識や運用だけを起点にコミュニケーションを考えるのではなく、ある社会集団に属し、人間関係を築き、心豊かに暮らすという視点からコミュニケーションと日本語をとらえる必要があります。例えば、

- ・感情や意味を互いに理解し合い信頼関係を築いていく
- ・相手の表情や気持ちや場の空気に注意して意思や思考を示したり問題解決を図ったりする
- ・自分の考えを論理的に明確に相手に表現する
- ・ストレスへの対処や自己開示をする

などのことを行う際に用いる日本語 (生活日本語) とはどのようなものなのでしょうか。

第二期中期計画では、

- ・日本人はどのような言語生活を送っているか（国語情報）

ということを一方向に見据えて、

- ・日本社会での人間関係構築，社会集団行動に必要な日本語力は何か（日本語情報）
- ・日本語非母語話者はどのような言語生活を送っているか（日本語教育情報）

ということを軸に，日本語教育機関が活用できる形での提供を目指し，四つの研究開発を行っています。本日行われる発表は，この四つの研究開発が何を指そうとしているか，これまで何が明らかになってきているか，などのことを示そうとするものです。

現中期計画の2年目が終わる時期ですが，日本人外国人を問わず，心豊かに暮らすために必要な日本語の力とは何か，日本語教育にとって必要な基盤情報とは何かについて，論議の深化，並びに研究活動への御理解と今後の御協力を願い，公開研究発表会を行う次第です。